



赤羽末吉「スーホの白い馬」
(大塚勇三再話、福音館書店、1967年)表紙原画(部分)
ちひろ美術館蔵 *当展ではビエゾグラフにより展示

Suekichi Akaba

特別展

『スーホの白い馬』の画家

赤羽末吉

あかば

すえきち

2023年 9月9日[土] — 11月7日[火]

月曜休館。ただし、9月18日(月・祝)、10月9日(月・祝)、11月6日(月)は開館し、9月19日(火)、10月10日(火)は休館。午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)

観覧料：一般700(550)円、高大生および65歳以上の方450(350)円、小中生300(200)円

* ()内は10名以上の団体料金 * 学校の教育活動の一環として観覧する小中高生と引率者、身体障害者手帳などをお持ちの方とその引率者などは観覧無料となります。詳細はお問い合わせください。

主催：北海道立文学館、公益財団法人北海道文学館(北海道立文学館指定管理者)、ちひろ美術館、北海道新聞社
特別協力：赤羽家 後援：札幌市、札幌市教育委員会

協力：福音館書店、偕成社、札幌第一こどものとも社・ろばのこ、ちいさなえほんや ひだまり

中島公園 | HOKKAIDO MUSEUM OF LITERATURE

北海道立文学館 特別展示室

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1-4 tel.011(511)7655

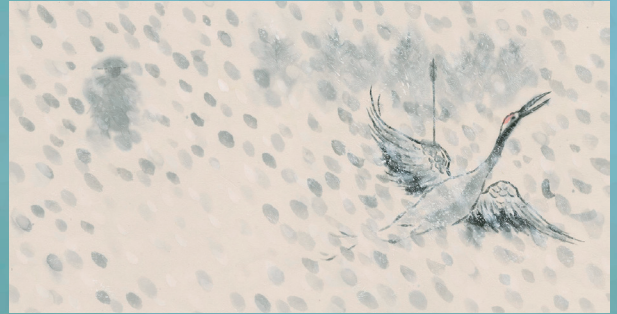
<http://www.h-bungaku.or.jp/>

絵本『スーホの白い馬』(モンゴル民話、大塚勇三再話、赤羽末吉画、福音館書店、初版1967年)は、馬頭琴の由来を雄大なモンゴルの風景のうちに表現して、出版から55年余を経てなお、日本中の子どもたちに読み継がれています。

赤羽末吉(1910~1990年)は22歳で旧満洲(現・中国東北部)に渡り、1943年には内モン古(現・内モンゴル自治区)を訪問。その壮大な風景に感動してスケッチや写真に収め、引き揚げの際も命をかけて持ち帰ります。それらが『スーホの白い馬』の誕生に繋がりました。

このほかにも、日本、モンゴル、中国の少数民族の民話に取材した絵本や、ユーモアあふれる創作絵本などを生み出しています。1980年には、子どもの本の最高の国際賞と言われる国際アンデルセン賞画家賞を日本人として初めて受賞しています。

本展では『スーホの白い馬』をはじめとして、赤羽末吉の親しみやすく、かつ格調の高い画業の魅力を、原画を高精細に再現したピエゾグラフィを交えて紹介します。また、アイヌの民話に取材した絵本『けちんぼおおかみ』(神沢利子文、赤羽末吉絵、偕成社、1987年)や、東北や北陸地方での入念なスケッチにもとづく『雪』の表現にも注目します。



上段：赤羽末吉『スーホの白い馬』(大塚勇三再話、福音館書店、1967年)原画より ちひろ美術館蔵 *ピエゾグラフィにより展示
中段右：赤羽末吉『つるによぼう』(矢川澄子再話、福音館書店、1979年)原画より ちひろ美術館蔵 *ピエゾグラフィにより展示
中段左：『けちんぼおおかみ』(神沢利子文、赤羽末吉絵、偕成社、1987年)表紙 北海道立文学館蔵
下段：『おへそがえる・ごん』① ほんこつやまのぼんたとこんたの巻 (赤羽末吉作・絵、福音館書店、1986年)表紙 北海道立文学館蔵

●展示構成

- I 赤羽末吉さんはどんな人?
- II 代表作『スーホの白い馬』
原画の魅力、ピエゾグラフィ(高精細の複製)により味わいます。
- III 中国とモンゴルの民話の絵本
『王さまと九人のきょうだい』、『あかりの花』などを原画のピエゾグラフィを交えて紹介。
- IV アイヌの伝えた物語『けちんぼおおかみ』
アイヌの民話はどのように表現されているでしょう。
- V 絵本表現の可能性
日本の民話、宮沢賢治作品の絵本化、創作絵本、そして雪の表現と、多彩な試みの数々とその魅力。

*ピエゾグラフィ=超高精細なデジタル印刷技術。微妙な中間色や質感の表現などを可能とし、美術作品の複製に用いられています。

【会期中のイベント】

講演会①「スーホの草原にける虹
—赤羽末吉の人生と絵本—」

対面+オンライン

講師：赤羽茂乃

赤羽末吉研究家で、赤羽末吉の義娘である立場から、身近に本人と接してきた視点でのお話をうかがいます。

★対面：9月9日(土) 14:00~15:30 当館講堂、無料
*要申込：8月18日(金) 9:00~電話受付(先着50名)

★オンライン：当館ホームページまたは右のQRコードからお申し込みください。
受付：8月18日(金) 9:00~
配信期間：
9月27日(水) 9:00~11月7日(火) 17:00



講演会②「モンゴルの風」

対面のみ

講師：松田ヒシグスレン

モンゴル出身で詩人、小説家、日本文学翻訳家の講師に、『スーホの白い馬』にちなみ、モンゴルの言葉や暮らし、文化などについてお話いただきます。

10月7日(土) 14:00~15:30 当館講堂、無料
*要申込：9月15日(金) 9:00~電話受付(先着50名)



◎読み聞かせ&ワークショップ 対面のみ

「おへそがえる・ごん」とあそぼう

おへそを押して口から雲をはくかえるのお話の画像を使った読み聞かせと、とび出すカード作り。はさみ使用。小学生から大人まで。小学生は要保護者同伴。

9月17日(日) 1回目：11:00~12:00 2回目：14:00~15:00
当館講堂、無料 講師：当館学芸員
*要申込：8月25日(金) 9:00~電話受付 ご希望の時間帯をお伝えください。(各回先着10名)

講演会③「えー!おきなおきなおきもって、こんなにちいさかったの?
—こどもの中に残る絵本の世界—」

対面のみ

講師：藤田春義

札幌第一こどものとも社で長年子どもの本に関わってきた講師が、赤羽作品のなかにあるマジックを解き明かします。

11月4日(土) 14:00~15:30 当館講堂、無料
*要申込：10月13日(金) 9:00~電話受付(先着50名)

◎ギャラリーツアー
(展示解説)

対面のみ

9月30日、10月14日、28日
いずれも土曜日 11:00~ 約40分
特別展示室 ご案内：当館学芸員
*入場券をお求めの上、展示室入口へ。(当日先着10名程度)

●常設展のご案内/北海道の文学(通年開催)

北の大地に育まれてきた北海道の文学。自筆原稿や初版本など貴重な資料を展示
観覧料：一般500(400)円、高大生250(200)円 65歳以上、中学生以下無料。
()内は10名以上の団体料金。高校生は土曜日無料。*詳細はお問い合わせください。

常設展 「川柳・斎藤大雄の宇宙」 7月11日(火)~10月11日(日)
文学館アーカイブ 「文学館コレクション 新収蔵品から」 10月17日(火)~12月28日(木)

◎次回特別展「左川ちか 黒衣の明星」11月18日(土)~2024年1月21日(日)
北海道余市町生まれの詩人・左川ちか(さがわ・ちか、1911~1936年)。短くも鮮烈な生涯とその詩の世界を紹介しします。

*感染対策の観点から、ご入館の際は皆様に必要なご協力をお願いする場合があります。また、会期やイベント等がやむを得ず変更となる場合もありますのでホームページ等でご確認をお願いします。

北海道立文学館

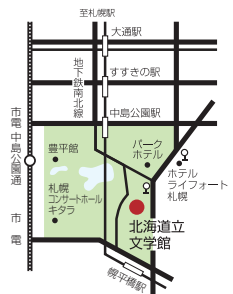
〒064-0931 札幌市中央区中島公園1-4

- 地下鉄南北線【中島公園駅(出口③)】または【幌平橋駅(出口①)】から徒歩6分
- 市電【中島公園通】から徒歩10分
- JRバス・中央バス【中島公園入口】から徒歩4分

【お問い合わせ】
tel.011-511-7655
fax.011-511-3266
http://www.h-bungaku.or.jp/

フェイスブック、
ツイッターでも
情報発信中!

施設設置者：北海道教育委員会
(教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課(代)011-231-4111)
指定管理者：公益財団法人北海道文学館



道立文学館 検索